

安全確保へ県との調整残る

津市議会 一般質問 がれき受け入れで市長

【津】津市議会第二回定例会は十一日開き、福田慶一（市民クラブ）、川崎正次（京都クラブ）、岡本知順（一津会）、平岡益生（公明党議員団）、豊田光治（日本共産党津市議団）、小菅雅司（津和会）の六市議員が一般質問した。川崎、平岡両市議は、東日本大震災で発生したがれきの広域処理について質問。前葉泰幸市長は「市民に安全性を説明するために確認しなけれ

ばならない論点が残っており、県と具体的な調整を進めるまで至ってない」と従来主張を繰り返した。受け入れるがれきの放射線セシウム濃度を一キ当たり一〇〇μ以下、焼却灰を同二〇〇μ以下など国基準より厳しく定めた県のガイドラインについて、前市長は「市民の安全性と、津市と県の行政間の関係に論点が残っている」と指摘。施設から出る排ガスや排水の安全性が確認できる独自の基準値の設定▽がれき積み替えのための一時集積所の確保▽市が実施する安全性の調査に対する県の技術的なサポートの継続―が必要と述べた。

その上で、前市長は「こうした論点について市民に説明するための十分な情報が得られていないため、安全性に関する調査、研究を進めている。がれきの安全性と焼却灰の受け入れ先が確保できるまでは、受け入れを進めるつもりはない」とした。（岩崎邦宏）